

柔道による負傷事故の分析（速報）

内田 良（名古屋大学）
uchida.ryo@f.nagoya-u.jp

1. 前提

①NAASH 名古屋支所から、柔道事故の個票データの提供（匿名性が確保されたもの）を受け、それを分析にかけた。なお、名古屋支所の管轄は、富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県の計 7 県である。

②2010 年度における柔道の事故事例を分析した。これらの事故は、医療費の支払いがあったものであり、かつ死亡・障害事例は除く。

③分析の対象は、以下のとおり。

- ・学校種：「中学校」のみ。
- ・活動：「保健体育」と「体育的部活動」のみ。「競技大会・球技大会」や「体育的クラブ活動」は除く。ただし、「競技大会・球技大会」や「体育的クラブ活動」の事例数はごくわずかである。
- ・負傷／疾病：「負傷」のみとする。「疾病」は含まない。

④「～の割合」の算出では、分母となるのは、事故事例数である。「事故が起きなかった件数（人数）」はわからない。

例）「頭部・頸部損傷の割合」

事故事例数全体のなかで、頭部・頸部の負傷が含まれる割合（＝事故が起きたときに、そのうち何割が頭部・頸部を損傷することになってしまうのか）を示している。生徒全員のうち何割が頭部・頸部を損傷するのか（いわゆる発生率）を意味しているわけではない。

⑤今回の分析は名古屋支所管内に限定されるため、母集団を日本全体と想定して、統計的検定をおこなった。ここで示す「有意差」というのは、保健体育と部活動との差の検定（5%水準）である。つまり、「有意差あり」というとき、保健体育における「～の割合」と部活動における「～の割合」は、統計的に明確な差があるということになる。

2. 分析結果

2.1 基礎データ

中学校の保健体育・・・597 件

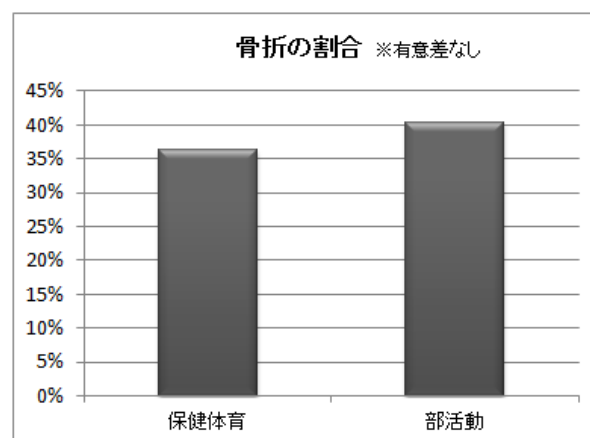
中学校の部活動・・・932 件

2.2 負傷の程度：骨折の割合（＝重傷の割合）

	負傷の程度		合計
	骨折 (=重傷)	その他の負傷 (=軽傷)	
保健体育	217	380	597
	36.3%	63.7%	100.0%
部活動	375	557	932
	40.2%	59.8%	100.0%
合計	592	937	1529
	38.7%	61.3%	100.0%

有意差なし

骨折の割合のみをグラフ化→

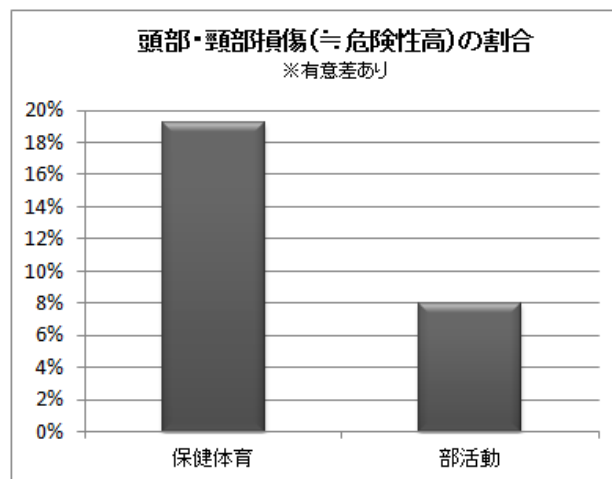


骨折とその他（脱臼、捻挫、挫創、挫傷・打撲、裂創など）で分類して、前者を重傷、後者を軽傷とみなし、保健体育／部活動の差をみた。部活動と保健体育との間に、有意差はみられない。つまり、負傷した場合には、保健体育と部活動はほとんど同等に、重傷に至る可能性があるということである。

2.3 負傷の部位：頭部・頸部を負傷する割合（≒危険性の割合）

	負傷の部位		合計
	頭部・頸部 (=危険性高)	その他の部位 (=危険性低)	
保健体育	115	482	597
	19.3%	80.7%	100.0%
部活動	74	858	932
	7.9%	92.1%	100.0%
合計	189	1340	1529
	12.4%	87.6%	100.0%

有意差あり



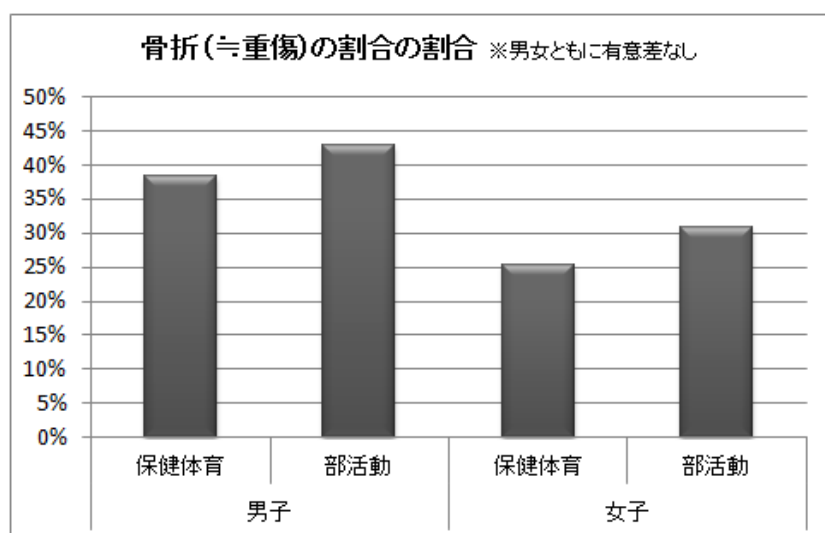
頭部・頸部とその他の部位で分類して、前者を命にかかわる危険性高、後者を危険性低とみなし、保健体育／部活動の差をみた。保健体育のほうが部活動よりも危険性が高く、そこに有意差が認められる。つまり、負傷した場合には、保健体育のほうがと部活動よりも、危険性の高い負傷に至る可能性があるということである。

2.4 男女別における、負傷の程度：骨折の割合（≒重傷の割合）

		骨折	その他の負傷	合計
男子	保健体育	195	315	510
		38.2%	61.8%	100.0%
	部活動	311	413	724
		43.0%	57.0%	100.0%
女子	保健体育	22	65	87
		25.3%	74.7%	100.0%
	部活動	64	144	208
		30.8%	69.2%	100.0%
合計		86	209	295
		29.2%	70.8%	100.0%

有意差なし

有意差なし

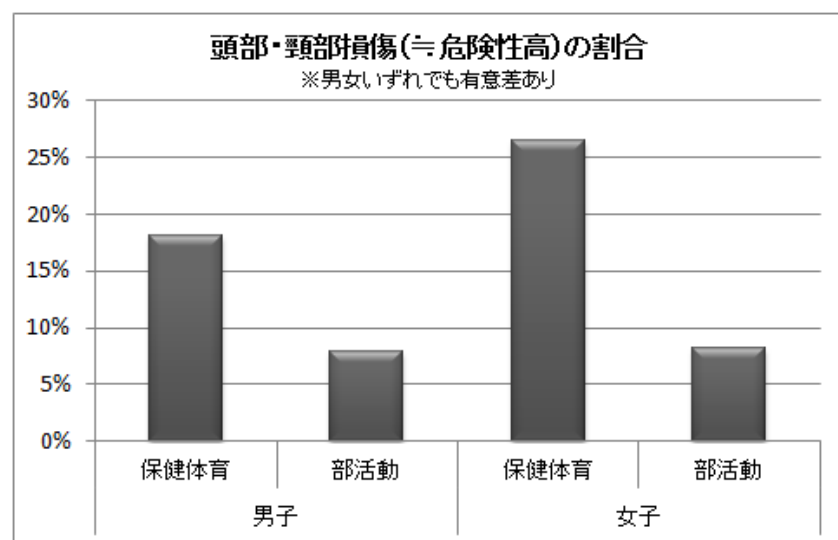


男女別に、骨折とその他における保健体育／部活動の差をみた。男女いずれも、部活動と保健体育との間に、有意差はみられない。つまり、負傷した場合には、男女いずれも保健体育／部活動を問わず、重傷に至る可能性がある。

また、男／女の差という点からみると、男子のほうが女子よりも重傷に至る可能性が高い。

2.5 男女別における負傷の部位：頭部・頸部を負傷する割合（≒危険性の割合）

		頭部・頸部	その他の部位	合計	有意差あり
男子	保健体育	92	418	510	
		18.0%	82.0%	100.0%	
	部活動	57	667	724	
		7.9%	92.1%	100.0%	
	合計	149	1085	1234	
		12.1%	87.9%	100.0%	
女子	保健体育	23	64	87	有意差あり
		26.4%	73.6%	100.0%	
	部活動	17	191	208	
		8.2%	91.8%	100.0%	
	合計	40	255	295	
		13.6%	86.4%	100.0%	



男女別に、頭部・頸部とその他の部位における保健体育／部活動の差をみた。男女いずれも、保健体育のほうが部活動よりも命にかかわる事故の危険性が高く、そこに有意差が認められる。そして女子ではとくに保健体育／部活動の差が顕著に出ている。つまり、負傷した場合には、保健体育のほうがと部活動よりも、危険性の高い負傷に至る可能性があり、かつ女子においてその差が著しい。

また、男／女の差という点からみると、保健体育に関してとくに女子のほうが男子よりも頭部・頸部の損傷に至る可能性が高い。

3. 要約と考察

負傷事例に限定した分析ではあるものの、分析からは以下の知見が得られた。

保健体育／部活動の差をみてみると、負傷をした場合には、概して保健体育は部活動と同等かあるいはそれ以上に重大な結果をもたらしている。とくに、致命的な結果に至る可能性がある頭部・頸部の損傷については、保健体育における割合が高いことに留意すべきである。

なお、死亡事例についてはすでに知られているとおり、部活動での件数が圧倒的に多い。このことをふまえると、仮説として次のようなことが考えられる。すなわち、柔道の授業（保健体育）では、負傷が重大な結果につながる可能性があるものの、いくつかの制約条件（時間が短い、活動内容がそれほど激しくない等）によって、最悪の事態には至っていない。ただし、最悪の事態とは紙一重である。この点はまだ仮説の段階であり、今後、柔道の専門家たちによるいっそうの検討が必要である。

また、男女別にみると、とりわけ女子の保健体育において、負傷時における頭部・頸部損傷の割合が高いことに留意しなければならない。武道必修化においては、女子の全員参加という点が、必修化以前と比べたときのもっとも大きな変化である。女子の指導には、よりいっそうの配慮が求められる。